あとがき

編集担当幹事　荻尾　茂（株式会社 GS ユアサ）

あれは 2009 年の幹事会だった。関西 EAC が 2011 年で 50 周年を迎えるにあたり，当時の会長から「先輩方から我々に至る半世紀の活動は，今後の設計・開発現場で改善チャレンジの礎となりうるものなのか？何らかの形にして，世の中に問うてみよう」と提案があり，“ 世に問う成果物 ” としてプロジェクトがスタートした。とはいえ 50 年の歴史をさかのぼるには，資料，時間に限りがあるのでパソコンが職場に導入され始めた 20 年くらい前からの例会発表事例などを通してそれぞれの「テーマに対する思い」を書くこととなった。

執筆を免れた私は運命のいたずらか編集責任者となったが，“ 何とかなるだろう ” 精神でのん気に構えていた。会長，副会長は，多忙な本業の裏でコツコツと原稿をしたためて全体の方向性を示してくれたものの，2010 年秋の幹事会時点で多くの執筆者は「原稿って書いてる？資料は集めてるけどいつ頃，何をどうしたらええの？」という状態……。かくいう私自身も「本づくりってどうするの？」と頭の中は真っ白のままだった。

年は明けて 2011 年，さすがに業を煮やした役員から「関西 EAC の会員の工学研究社さんが出版など手がけていて協力していただけるよ」と紹介いただき，ようやく真っ白な頭の中に一筋の光が見えてきた。しかし，50 周年記念イベントまで 1 年足らず……さすがに焦ってきた。

関西 EAC の運営はボランティアなので，その人たちの熱意で全て決まってくる。出版社との協議を経て出版までの道筋と各自のタイムリミットが示されるやいなや，遅れていた執筆者はほとんど休日返上で執筆活動に没頭。次々に届けられる原稿の中身はまさに設計・開発の現場で奮闘している執筆者たちの「今の状況を何とか改善したい」という熱い思いが一杯詰まったものであった。そして更なる熱い思いが交錯した執筆者相互の原稿チェックが入る。喧々諤々のやり取りの結果，かなりの書き換えも発生しながら堂々と世に問う自負が詰まった原稿が集まってきた。続いて，初校，再校の校正プロセスや本のタイトル，表紙のアイデア出し・決定などを経るにしたがって「本づくり」に携わる実感が涌いてきた。

そんなワクワク感を味わいながらたくさんの皆さんの協力を得てこうして “ 世に問う成果物 ” を何とか世の中に送り出すことができたことを心よりうれしく思う。

近年，日本の「ものづくり」は更なるグローバル化と国内産業空洞化阻止の狭間に漂いながら方向性を模索し続けている。グローバル化には国内の設計開発力をいかに強化するか不可欠である。そのことが国内産業の空洞化を防ぐことになり，そのためには様々な視点からの取り組みが必要であることが本書によって示されたと思う。

いっぽう，日本社会はこれまでの社会システムが破綻し，先行きが不透明なままの経済のなかで政局が混迷していたところに未曾有の大震災が発生し困難を極めている。あまりにも悲惨な状態の中で「ものづくり」はおろか「くにづくり」の方向性さえなかなか見出せていない。しかしながら，日本国民はこの状況を打開するためにはひとつになる必然性をなんとなく共有している。そしてつい先日，『夢を持って，諦めないで続けていれば夢は叶う』『ひとつの目標のためには，ひとりひとりが努力を惜しまない。』ことを，サッカー女子のなでしこジャパンが史上初のワールドカップ優勝というかたちで見事に示してくれた。

日本の「くにづくり」，「ものづくり」を取り巻く環境は厳しいが，我々が夢を持って諦めないで続けていくことが，関西 EAC の先達の方々への恩返しになり，これからの国難を切り開き日本の復興，「ものづくり」の復興につながっていくものと信じてやまない。

ここから先は，この本を手に取っていただいている読者の皆さんと更に丁々発止の議論を繰り広げて，新たな「ものづくり」の歴史を築けていければ本望である。

最後に「ものづくり」は大好きなものの「本づくり」には全くの素人だった執筆・出版編集のメンバーに全面的な協力をしていただいた（株）工学研究社の吉川氏を始め，権藤氏，鎌田氏に厚く謝意を表したい。

以上

実践　設計開発力強化マネジメント
ー設計現場にみる実情と展望ー

2011 年 11 月 20 日　初版発行

執筆者
関西設計管理研究会

発行者
河鰭　直

発行社
工学研究社

〒 160-0007
東京都新宿区荒木町 23-15　アケボノ大鉄ビル 2F
電話：03-5362-5163
http://www.cogaku.co.jp

印刷会社　東海電子印刷株式会社

ISBN978-4-87646-790-7

本書の無断複写は，著作権法上の例外を除き，禁じられています。

ⓒ関西設計管理研究会